

「住みよいまちにするために」テーマに若者が討論！



阿蘇市青少年健全育成市民会議（梅木康裕会長）主催の第4回阿蘇市青少年健全育成推進大会が、2月14日、就業改善センターで開催され、地域や教育関係者など150人が参加しました。前半は「ネット社会と子どもたち」と題して（財）ハイパーネットワーク社会研究所研究企画部長・大分県立芸術文化短期大学非常勤講師の渡辺律子氏による講演が行われ、後半は「子ども・若者に住みよいまちに、今しなければならぬこと」をテーマにしたパネルディスカッションが展開されました。

パネリストは本市で働く若者5人

- ①市原豪さん（市原農場、農業）
- ②小野翔輝さん（阿蘇広域消防本部、消防士）
- ③隅田恵佳さん（ASO田園空間博物館職員）
- ④西村英里さん（子育て支援サロンみち草）
- ⑤藤本慎治さん（阿蘇温泉病院、理学療法士）

今の阿蘇市は若者にとってどうか？ どうしたら魅力あるまちになるか？ などに意見を出し、若者らしいまっすぐな思い、視点、発想、行動力に会場から盛大な拍手が送られました。

■意見の一部

市原：農業後継者が少ない。学校でも立派な進路として進めてほしい。外部からの農業研修生もどんどん受け入れるべき。また、阿蘇市で農業をと決断して来たＩターン新規農業者を地域で優しく受け入れ応援してほしい。

小野：まちに活気や魅力を感じないという若者が多い。ここから変わるなら一致団結した大きな行動を起こすしかない。湯布院も人々の一致団結からまちが拓けたと聞く。まちづくりにもんな協力してほしい。

隅田：昔ながらの伝統は考え方の基礎となる。大人と子どもとの活動をもつと行って地域の魅力や昔のことも受け継いでほしい。地域に愛着を持つことが若者を残すことにつながる。

西村：3世代で住むことを勧めたい。子どもに高齢者を敬う心が育まれる。高齢者も子どもとの生活で笑顔で元気に過ごせる。同居すれば高い家賃に悩まされることもなく、エコにもつながる。

藤本：お孫さんと一緒にいる高齢者の方は本当にお元気。世代間の交流が増えると子どもに社会のモラルが育まれてくる。全世代が活気を持てる阿蘇市づくりを。

テングス病切除作業に奉仕



内牧1区（白石博春区長）は、毎年、年に2回、黒川堤防沿いの桜の手入れ作業に汗を流されています。また、内牧案内人協会（井野貴志子会長）が阿蘇体育館横の通りを、宇土地区（大木正幸区長）、内牧花原川を守る会（小嶋維男会長）も黒川堤防で枝の切除作業に奉仕されるなど、地域を美しくしようという気持ちが集まり花を咲かせています。